

感想・質問 2

栃木避難者母の会 内田啓子

(代読 国際学部 3 年 三上果南子)

ほっとはうすとの出会いと気付き

私は、2011 年 3 月の東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県から栃木県内に避難をしている母親が立ち上げた団体で活動しております。

昨年、私たちの活動をご支援くださる阪本先生にご縁をつないで頂いて、ほっとはうすの皆様と出会い、皆様の「命の授業」に参加して、改めて水俣病について勉強させて頂きました。

水俣病については、もちろん「四大公害病」として小学校・中学校・高校と勉強していたのですが、ほっとはうすの皆様から水俣病受難者としてのご自身の半生や、ご家族の話を直接伺うことができ、教科書ではおおよそ知ることができなかった沢山のことを知ることができました。改めて皆様が歩まれてきた道のりの過酷さを知り、言葉が出ませんでした。そして同時に皆様の「働く」ことへの情熱や、1 人の人間として社会の中で力強く生きようとする心に触れ、とても深く感動いたしました。

私自身は、原発事故が起こるまでは公害を含めた社会問題には関心が薄い方でした。関心が全くなかった訳ではないのですが、どこか他人事のように考えていたのです。しかし原発事故は私の近くで起こり、私の周りの社会は一変しました。いえ、社会が変わったのではなく、社会に対する私の見方が一変しました。事故後に「どうして原発事故は起きたのか」を考える様になり、色々な本を読みましたが、納得のいく答えはみつかりませんでした。そんななかで私はやり場のない怒りを感じていました。誰に対して文句を言っているかわからず、どこに向かって声をあげるべきか、わかりませんでした。悔しい思いだけがありましたが、何をどうすべきかも全く見当がつかみませんでした。そんな時に、ほっとはうすの皆様に出会い、皆様の力強い生き方にふれて、私の心の中で何かが浄化した様に感じました。私の抱える問題の全てが解決された訳ではないのですが、一つの答えを提示して頂いた様に感じております。

足尾・水俣・福島の連続性と無関心という問題

足尾銅山鉍毒事件にきちんと向き合えなかったから水俣病事件が起こり、水俣病事件にきちんと向き合えなかったから福島の原発事故が起こった—この言葉を知った時に、当事者だけの力ではこの負の連鎖を断ち切ることはできないのではないかと思います、社会全体で考えていかなければと、思うようになりました。「くりかえさないために」ほっとはうすの皆様も同じ様なお考えから「命の授業」を始めたのだとお察しします。

この様な問題をできるだけ多くの人に関心を持ってもらいたいと考えているのですが、実際それはとても難しいと感じております。原発事故前の自分を振り返って考えてみても、

社会問題に無関心な人に関心を持ってもらうことは容易ではないと感じています。しかし、当事者だけで問題を抱え込んでいるだけでは、解決は難しいのが現状だと思います。関心が向かない人たちにも関心を持ってもらおうとすると、危機感をあおる様な論調になってしまいます。当事者以外の人たちにも危機意識を持ってもらうことはとても大切だと思いますが、そのために必要以上の不安感を与えたり、脅すような方法で危機意識を持ってもらうやり方には私自身は限界を感じております。危機意識をあおる様な話に耳を傾けたいと願う人はいないと感じますし、脅しの様な方法では人々の共感を得ることはできないと思うからです。

マザー・テレサの言葉に「愛情」の反対語は「憎しみ」ではなく「無関心」である」がありますが、自分も含めいかに多くの無関心が社会に広がっているのではないかと感じております。脅しや危機意識をあおる様な方法ではなく、水俣の皆様が行っている「命の授業」の様に、お互いを分かち合える場所を提供できる様な、関心をもって貰える様なアクションを社会に対して何かおこせないかと模索しております。

問題を「知る」と立ち向かう勇氣

今年で水俣病公式確認から 59 年、新潟水俣病の公式確認から 50 年が経ちましたが、未だに多くの方が裁判と関わっていらっしやると知り、愕然としております。昨年の授業で学んだ以外にも、原田正純先生の書かれた本を読んで勉強しましたが、訴訟を起こすこと自体がとても勇氣がいることだと感じております。精神的にも肉体的にも経済的にも辛い裁判の戦いが、必ずしも「勝訴」にはならないことに、正義とは一体何なのかを考えさせられます。そしてたとえ「勝訴」という判決が出たとしても、その後も偏見や差別に苦しまれる方がいるという事実、言いようのないもどかしさを感じております。

様々な障壁を乗り越えてそれでも前を向いて立ち続ける・歩み続ける努力をされる水俣の皆様の姿に、本当に勇氣づけられております。水俣の皆様からは、問題を「知る」ことの大切さを学び、そしてその問題解決のために、たとえ微力でも立ち向かう勇氣を持つ大切さと、お互いを支え合う人の心の深さを教えて頂きました。本日は本当にありがとうございました。

質問：「命の授業」と関心を広めていく方法について

最後に二つ質問させていただきます。一つ目は「命の授業」を始めるまでの簡単な経緯や、始めてからのご苦労や、また始める前には考え付かなかった様な思いがけない効果があれば、良い点と悪い点、どちらでも結構ですので教えて頂けると嬉しいです。

二つ目は、「どうやって社会と向き合い、関心を広めていくか」について質問です。裁判で戦うことは、実際に原因企業や国を相手に戦うだけではなく、社会的なメッセージも含まれていると考えおります。それでも全てが裁判で解決される訳ではないと思いますし、そういったメッセージを拾い損ねる人もいます。繰り返しになりますが、無関心な人たちに向けて、いかに関心を持ってもらえるかが、水俣病はじめとする社会問題の解

決につながるのではないかと私は考えております。

そこで「命の授業」や裁判をおこす以外に社会に訴える方法があれば、教えて頂ければ幸いです。実践していることだけではなく、お考えだけでも結構ですので、よろしくお願い致します。